

租税教育実践レポート

わたしたちのくらしと税金

登米市立米岡小学校教諭 6学年 高橋 宏典

実施年月日：令和2年1月24日 23名

1 実践計画・指導のねらい

児童は、社会科の歴史学習において「租・庸・調」や年貢、地租改正などの税の歴史について学んできた。実生活でも、消費税などの身近な税金があることは知っているが、それ以外の税金の種類や税金の使い道については具体的には知らない児童が多い。そこで、本実践では、社会科「わたしたちの生活と政治～子育て支援の願いを実現する政治～」の単元での税に関する学習、「税に関する標語」や「税に関する絵はがきコンクール」への応募、登米法人会よりゲストティーチャーを招いて行う「租税教室」を通して、税金がわたしたちの生活や社会を支える大切なものであることを理解させる。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問（○）、子供たちの反応（●）、使用教材等（□）
1	・「第7回 税に関する標語」の募集に応募する作品の作成を通して、税に関する理解と関心を高める。	○ 学んだことをもとに、「税に関する標語」を作しましょう。 ● どんな標語を作ろうかな。 □使用教材名 税について楽しく学べる本 「税について考えよう！クイズだぜい！」 
2	・「令和元年度 税に関する絵はがきコンクール」の募集に応募する作品の作成を通して、税に関する理解と関心を高める。	○ パンフレットを参考に「税に関する絵はがき」を作しましょう。 ● どんな絵はがきにしようかな。 □使用教材名 「平成30年度税に関する絵はがきコンクール」表彰作品のパンフレット 
3	・社会科における「市民の願いを実現するために税金が重要な役割を果たしていることについて、資料を活用して、必要な情報を読み取ること」をねらいとする学習を通して、税に対する理解を深める。	○ 子育て支援のための費用は、どこから出のでしょうか。 ● 税金だと思う。税金はどのように集めるのかな。 □使用教材名 教科書「新編新しい社会6下」 
4	・登米法人会よりゲストティーチャーをお招きして行う出前授業「租税教室」の実施を通して、税に対する理解を深める。	○ 税金の働きや必要性について考えよう。 ● 税金がないとどんなことが大変なのかな。 □使用教材名 税のDVD「マリンとヤマトの不思議な日曜日」 

【指導のポイント】<1時間目>

法人会発行のテキスト「クイズだぜい！」を使用し、税金について学ぶとともに、学習したことをもとに税に関する標語を作り応募した。

【指導のポイント】<2時間目>

法人会発行の「平成30年度税に関する絵はがきコンクール」表彰作品のパンフレットを提示し、スローガンと税に関する絵を描くことを押さえ、税に関する絵はがきを作成し、コンクールに応募した。

【指導のポイント】<3時間目>

教科書や資料集をもとに、税金の集められ方や使われ方について調べさせ、グループごとにまとめさせた。また、物を買うときに支払っている消費税について取り上げ、自分たちも税金を支払っていることに気付かせ、公共事業に活用されていることを説明した。

【指導のポイント】<4時間目>

ゲストティーチャーとして法人会の方々をお迎えし、専門的な立場から指導していただくことで、児童は税金が自分たちの生活を支えるために重要な役割を果たしていることを理解できた。

3 実践の成果（◎）と課題（◆）（租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など）

◎ 標語や絵はがきの作成、社会科の授業、租税教室など、様々なアプローチから租税教育を進めることができ、児童は税についての学びを深めることができた。また、ゲストティーチャーである登米法人会の方々のお話や税のDVD、1億円のレプリカなどの具体物を活用した学習は分かりやすく、児童は関心をもちながら税金の意味や必要性を理解することができた。

◎ 児童の感想から、租税教育の前後で、税に対するイメージや認識が変化している様子がみられた。税金は自分たちが生活をする上で欠かすことができないものであることを学んだことで、国民の3大義務に「納税の義務」があることの意味を、実感を伴いながら理解することができた。

◆ 児童にとっては、消費税以外の税についてなかなか捉えにくい面がある。「どんなことに、どのようにして、どのくらいの税を納めるのか」という点について、指導者が例示できるようにするなど、児童に伝えられるような手立てを講じることで、児童はより身近なものとして捉えられると考える。